

スリッローラーシーダーを用いた 水稲乾田直播・大麦・大豆2年3作播種作業技術

1 背景・目的

水田の効率的利用を進めるため、水稲・大麦・大豆の輪作体系が有効である。そのため、汎用播種機スリッローラーシーダーを用いた低コスト水稲乾田直播・大麦・大豆2年3作輪作の作業体系を開発する。

2 技術のポイント

- (1) 3品目ともチゼルプラウによる耕起後にスリッローラーシーダーで播種することで苗立数を確保できる(表1、図1)。播種前に額縁明渠や心土破碎等の排水対策を実施し、適湿土壤にて播種を実施する(図2)。
- (2) 水稲乾田直播栽培では播種前にバーチカルハローによる圃場整地、播種後にケンブリッジローラーによる漏水防止のための鎮圧を2回実施する(図1)。
- (3) 大麦・大豆では播種機にサイドリッジャーを装着し排水溝を同時に形成する。
- (4) 輪作は水稲乾田直播、大麦、大豆の順で行う。大麦作前の排水対策は大豆作まで効果が持続する。

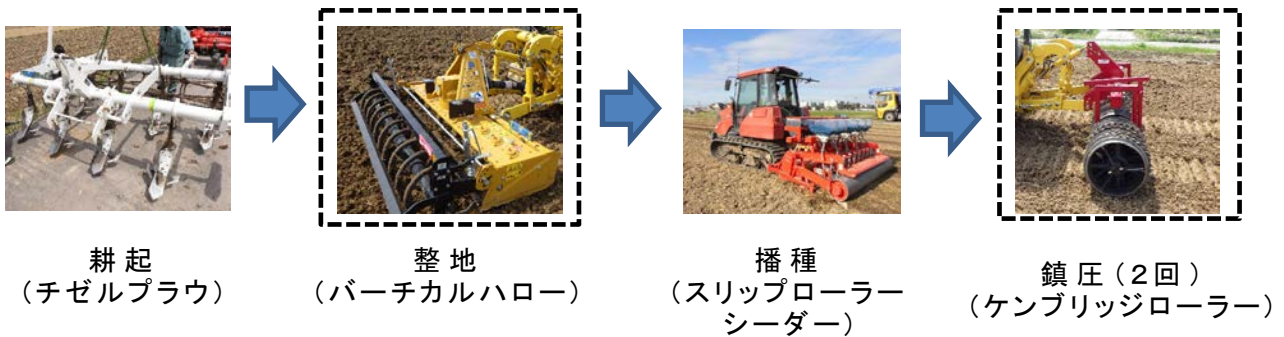


図1 水稲乾田直播・大麦・大豆共通の播種作業体系 (点線の作業は水稲のみ)

表1 スリッローラーシーダー播種による苗立数

品目	播種深度(cm)	播種量(kg/10a)	苗立数(本/m ²)
水稲	1.5~2.0	5.0	78
大麦	3.0	8.5	159
大豆	3.0	12.0	30



図2 左 適湿土壤, 右 過湿土壤

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 輪作体系の大豆作後はほ場排水性が高まり、鎮圧のみでは漏水防止が難しいため、代掻きの実施や畑作を行う。
- (2) 前作残渣が耕起の障害になる場合は、モア等により残渣処理を行う。
- (3) 本成果は細粒土における試験結果である。

問合先：作物栽培グループ TEL 076-257-6911
担当者：吉藤昭紀